

「1・17」 星の観察会

校長 田中 準三

ついこの間新学期が始まったように思うのですが、気がつけばもう7月、いよいよ1学期も終わろうとしています。学校ではプールが始まり子供たちが元気に水しぶきを上げています。しかし、まだ梅雨明けには至らず、本格的な夏の到来までには少し時間がかかるようです。

先日、保護者の皆様に震災20周年にあたる来年の1月17日が土曜日になるため、オープンスクールを例年より1日ずらし、その日を登校日にする旨（オープンスクールは16日も行います。）をお知らせしました。17日の午前中は震災集会を予定していますが、当日は震災時の本校校長であった池田清伍先生にお越しいただき、当時の様子を生の声でお聞きすることにしています。池田先生は震災時の若宮地区の様子を克明に記した「惨禍を乗り越えて」という冊子の中心執筆者ですが、私自身本校に着任した時に、自分の震災体験とも重ね合わせながら読み入ったことを思い出します。現在若宮小に通う子供たちは全く震災を知りません。しかし、神戸で暮らす子供たちにとって過去に神戸、いや若宮であったことを記憶に留めておくことには大きな意義があると思います。東日本大震災以降、防災に対する意識には大きな高まりがあります。その意味でも将来のわが国を担う子供たちにしっかりと考えさせる機会になればと願う次第です。

「来年の1月17日、星空に集う会を開くことになりました。人の命と星にまつわる伝説が、世界中にたくさんある。そんな話をしながら、はるかかたから届く光をみつめるんです。星を通して犠牲者に鎮魂の思いを届ける。20年の節目でようやく実現します。」

この文は先月の18日（水）付の神戸新聞夕刊に掲載された記事にあるものです。それを寄せた人物は今年の3月に定年退職された元小学校長の鷲尾正則さんです。神戸新聞は今、「震災20年次代へ あゆむ」という特集を組んでいますが、これはその1つです。先日のお知らせの中で17日の夕方から「星空観察会」を実施することもお伝えしましたが、鷲尾さんが言う「星空に集う会」こそがまさしく若宮小で行う「星空観察会」なのです。神戸ルミナリエが華やかな鎮魂であることに対して、今回の取組は静かな鎮魂といえると思います。鷲尾さんと話す中で、若宮小校区が震災時の大変な状況乗り越えて今日に至っていること、また尊い児童の命を失った悲しい事実があるということを踏まえ、本校に白羽の矢が立ちました。当日は真冬で厳しい寒さが予想されますが、事情が許せば是非お子様とご参加いただければと存じます。とはいえ、まだまだ先の話ですのであまりピンとこないのが実情だと思います。また時期が近づきましたら再度ご案内を差し上げます。先月18日の新聞記事は残念ながらスペースの都合で載せることができませんでしたが、次回のご案内時に合わせてご紹介したいと考えています。なお、当日のその他の内容についても後日お知らせしますのでよろしく願いいたします。